

林 重雄¹：愛知県蒲郡市にオノガタウスエボシの漂着Shigeo HAYASHI¹ : *Octolasmis warwickii* stranded on the beach of Gamagohri City, Aichi Prefecture, Japan

エボシガイ類は、蔓脚亜綱完胸超目の中で有柄目に分類される（倉谷 2009）。エボシガイ類の多くは流木や軽石、瓶類など海上に浮遊や漂流するものに付着し成長してきたことから（石井 1999）、漂着物愛好家に注目されてきた。エボシガイ類の中でヒメエボシ科のオノガタウスエボシは三角形の頭状部をもち、楯板は板状の基底枝と閉塞枝に分岐し、背板は斧状を呈する。日本近海から台湾、南シナ海、マレー群島、インド洋、南アフリカにかけて分布し、浅海の蟹類に着生する（弘 1937）。

漂着記録

筆者は2019年12月8日、愛知県蒲郡市西浦半島の基部に位置する春日浦で（図1）漂着物の調査中にガザミ *Portunus trituberculatus* の甲突起に付着したオノガタウスエボシ *Octolasmis warwickii* 2 個体を確認した（図2）。乾燥状態で頭状部が6.7mmと6.1mmであった。乾燥状態であったために体内にある背板、盾板、峰板が浮き上がり、レリーフ状になっていた。

発見時（14時）の天候は晴れ、最寄りの蒲郡のデータによれば気温14℃、南南東の風、風速2.4m/sであった（気象庁ホームページ）。オノガタウスエボシの付着したガザミは、他の貝類などと一緒に高潮線に打上げられていた。ガザミは死後で脚や腹部の外れた背甲幅185mm、甲長86mmであった。

随伴して見られた漂着物は、シオフキ、バカガイ、カガミガイ、アサリ、マテガイ、トリガイ、ユウシオガイ、ムラサキガイ、イソシジミ、ツメタガイ、シマメノウフネガイ、アカニシであった。

三河湾ではこれまでにガザミ類に付着したカメフジツボなどの蔓脚類が確認されている（林 2019）。そのためガザミ類を注視すれば蔓脚類に出会う可能性は高まると思われる。ガザミに付着したオノガタウスエボシの漂着は1例のみなので、漂着が確認できた記録にとどめ、詳細は今後の比較サンプル漂着の機会にゆずりたい。

謝辞：本稿をまとめるにあたりフジツボ研究家の倉谷うらら氏には、エボシガイ類の資料や同定のアドバイスをいただいた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 林 重雄 2019. 愛知県蒲郡市春日浦にカメフジツボの漂着. 漂着物学会誌 17 : 33.
 弘 富士夫 1937. 完胸目 I. 日本動物分類, 9 (5), 116pp. 三省堂, 東京.
 石井 忠 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
 気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2020年4月12日閲覧)
 倉谷うらら 2009. フジツボ 魅惑の足まねき. 121pp. 岩波書店, 東京.

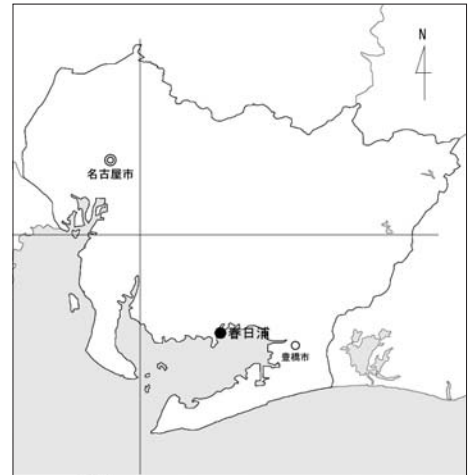


図1 愛知県蒲郡市春日浦の位置



図2 愛知県蒲郡市に漂着したガザミの背甲に付着したオノガタウスエボシ

(Received June 17, 2020; accepted July 15, 2020)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan